



園だより

第4号

令和2年9月29日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

絵本と出会う楽しさ

日に日に夕暮れ時が早まり、「秋の日は釣瓶落し」という言葉を実感する季節となりました。夜が長くなる秋は、「読書の秋」でもあります。

年長・年中児に加え、9月から年少児も絵本の貸し出しが始まりました。幼児の「読書」は、大人から絵本を読み聞かせてもらうことで成立します。子どもたちは、自分で選んだ絵本を大好きな保護者の方に読んでもらおうと嬉しそうに持ち帰っていきます。

ベネッセ教育総合研究所の研究では、「幼児期の読み聞かせの頻度が高いほど、小学生になってからひとりで絵本や本を読む頻度が高い」「小学4年以降のひとり読み頻度の高さは、言葉のスキルや論理性の獲得に影響を与える」といいます。こうお伝えすると、言葉の力を伸ばそうと読み聞かせに力を入れすぎる方もでてくるのではと心配になります。子どもの「読んで」に答えながら、読み聞かせの一時を親子で楽しむことが一番大切なのです。大好きな人に読み聞かせをしてもらう中で、絵本と出会う楽しさを味わうことが、本の世界への入り口に立つ子どもたちにはとても重要です。

そして、すぐれた絵本が身近にあることも、子どもたちが絵本と出会う楽しさを味わうために必要になります。本園では、夏季休業中に、教員が読み聞かせをしたい絵本をそれぞれリストアップしました。その中には、既に本園にある絵本だけでなく、近年出版された新しい絵本もたくさん入っていました。すぐれた絵本を見分ける手段のひとつに、絵本の見返しに記載された「版」や「刷」の数があります。この数が多いほど多くの子どもたちに愛され、重版された絵本だからです。多くの新しい絵本が出版される今日、その中からすぐれた絵本を選ぶことは容易ではありません。しかし、リストアップされた絵本は、絵も、言葉も、ストーリーもすぐれた絵本でした。教員たちは、図書館や書店で手に取り、絵本を読みながら、子どもたちに出会わせたい絵本を探したのでしょう。その昔、今では小学校の教科書に載るほど有名になっている『スイミー』（好学社）の初版に出会った時、わくわくしながら絵本の中に引き込まれ、早くこの絵本を子どもたちに読み聞かせたいと思ったことを思い出しました。これからもたくさんの絵本に触れ、読み聞かせながら、後世に残るすぐれた絵本を探し出す教員の力をさらに磨いていってほしいと思います。今回、100冊近くの絵本を購入しました。ここからもすぐれた絵本と出会いを広げてまいります。

また、夏季休業中には、絵本を点検し、必要な絵本には修理をして、子どもたちが絵本と素敵な出会いをできるようにしました。貸し出しをした絵本をご家庭でも大切に扱い、絵本を大切なものとして扱う気持ちも育てていきましょう。

絵本の貸し出し日には、子どもたちが読んでもらいたいと思う一冊を選びやすいように、教員は机の上に表紙が見えるように絵本を並べます。表紙の絵を見たり、手に取ったりしながら、子どもたちは絵本を選んでいきます。すぐに読んでもらいたい絵本を選べる子ども、なかなか迷って決められない子ども……。読んでもらいたい一冊の絵本との出会うまでの子どもの姿は、一人ひとり異なります。しかし、自分で選ぶこの時間が子どもたちに絵本を選ぶ力を育み、これからの本と出会い楽しむためにとっても重要になります。

このようにして選び、「読んで」と持って来た絵本の読み聞かせを「読書の秋」に親子で楽しんでください。そのことが確実に小学校以降の子どもたちの力につながっていきます。



＜まだまだ日差しが強い秋＞
ミニ運動会を園庭で行うにあたり、日よけを作りました。年中組の『しっぽとり』では暑さをしのぎながら応援します。



＜スポーツの秋＞
年少組のミニ運動会。「ゴールをめざせ」では、いろいろな動きを楽しみました。



＜読書の秋＞
たくさんの絵本の中から“一冊”を選ぶことは、楽しいことです。選ぶ時間やきっかけは一人ひとり違います。



＜実りの秋＞
近隣の公園に散歩に行き、ドングリをいっぱい拾いました。10月は、これまで実施できなかった園外保育に出かけ実りの秋を実感します。バスのピストン運行により乗車人数を半分に「密」をさけながら実施していきます。